

まごころのおくりもの 1月分

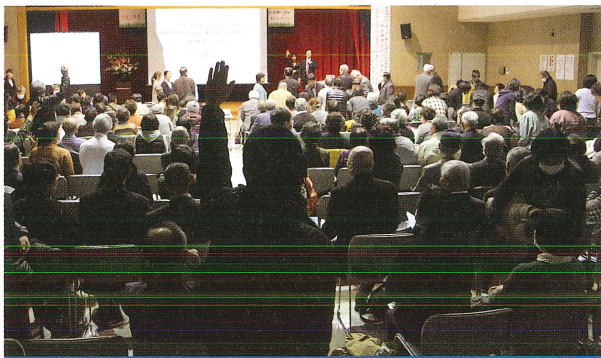
金銭の部（指定分）

- 《肱南地区社協へ》 泉 秀哉 様 大 洲
- 《平地区社協へ》 菅 章 様 東大洲
- 《南久米地区社協へ》 井上輝行様 横須賀市
- 《菅田地区社協へ》 東 茂一 様 菅田町
- 森本晋一郎様 菅田町
- 《大川保健福祉協議会へ》 高本 幸 様 森 山
- 《柳沢地区社協へ》 宮岡 敬 様 柳 沢
- 《肱川地区社協へ》 岩田忠義様 肱川町
- 《特別養護老人ホーム
かわかみ荘様へ》 草莽の 一 蛭 様 大洲市

あたたかい善意をありがとうございました。感謝をこめて掲載させていただきます。

がとても大切になります。
次に先生は、当事者を支援するにあたって心にとめておきたいことについて、東田直樹氏の映像や南雲明彦氏のお話も例にしながら話されました。福祉全般に通じることですが、当事者にとつての課題とは、「できないこと（弱み）ではなく「伸びしろ（強みを伸ばすこと）」なのです。言葉に出してひとつひとつほめること。最初から大きな目標にせず、手順を具体的に示しながら、スモールステップで達成できるように支援すること。そして安心・集中でき、自己肯定感・共生感を感じられる場所があるということ。大切なことは、一番近くにいる人による障害特性に合った一貫性のある支援と伴走です。

SNCCセンターのような学校はできますか。いつ頃できますか、「障害者の就職はひろがりですか」、「東田直樹さんの本を購入します。親子で良い話が聞けました」、「就労支援の仕事をしていいますが、何十年と歯科受診できない方にどのように受診の声をかけましたら良いですか」、「発達障害支援で先生が感じられたことを教えてください」等の質問に大変わかりやく答えていただきました。
当事者にとつて、学びやすい（働きやすい、暮らしやすい）環境とは「自分の力だけではできないけれど、他者の支援があれば問題解決できる状態にあること」です。
障害特性を持つ方も安心して暮らし続けられる地域を目指し、発達障害の特性を知ること、専門家だけでは対応しきれない複雑・



当日は市内を中心に約250名の参加をいただきました



最後に記念撮影をしました

多様化した近年の様々な問題に、ボランティアや地域の住民の方々も「地域のふくし力」(5)だんの(6)らしの(7)あわせ」を考える機会になった研修会でした。

※1 自閉症にしてベストセラー作家。海外でも翻訳出版され注目されている。著書に「自閉症の僕が飛び跳ねる理由」他。二〇一一年アットマーク国際高校（二〇〇四年日野先生設立）卒業。
※2 ティスレクシア（読字障害）による自分の経験を生かし、生きづらさを抱えている子どもたちの未来を考える活動を行っている。明蓬館高校の「共育」コーディネーター。二〇〇六年アットマーク国際高校卒業。